



—東北生産性本部—

# 第37回仙台シンポジウム9月例会開催

テーマ「世界の潮流を読む～真にあるべき日本の基軸」



■ 9月例会（9月9日開催）

★講師 一般財団法人日本総合研究所  
理事長 寺島 実郎 氏

第37回仙台シンポジウム9月例会は、テレビ等でおなじみの日本総合研究所の寺島実郎理事長を迎え、71名の参加を得て開催致しました。

## ◆外資依存の株高幻想の終焉と成長戦略の必要性

寺島氏からは、日本経済の現状は、アベノミクスという株高幻想であり、実態経済は伴っていない、株価だけが景況感を牽引していると指摘。現在の株高は、外国人投資家（ヘッジファンド）による新興国（BRICs）低迷の中での相対的な日本への投資でマネーゲームにすぎないとの見方を示し、その株高を維持するために公的年金から国内株式に投入が進められており、今後公的年金の利回りの持続が懸念されると指摘した。

実態経済において注目すべき物価と所得については、再び「川上インフレ、川下デフ

レ」の構造が鮮明であり、株価とは乖離している。つまり、川上の原材料は円安反転による「輸入インフレ」で2割以上高騰しているが、所得が伸びていない現状で最終製品は価格を上げたくても上げられない「原材料インフレ、最終製品デフレ」の構造が極端になってきている。アベノミクスは一部の資産家と企業業績にはプラスであるが、勤労者家計への分配増にはなっていない。勤労者世帯の所得は微増したが、可処分所得（税・年金・保険を払った後の実際に使える金）は微減、つまり「生活苦」は進行しており、このままでは「格差と貧困」を増幅させることから、真の成長戦略が必要であると説かれました。

「第三の矢」の成長戦略での実行計画・プロジェクト計画が必要であり、具体的には従来の自動車産業に過剰に依存した「工業生産力モデル」は限界であり、「長期的な国土のグランドデザイン」と「新たな産業観に立つ産業創生戦略」が不可欠で、具体的には医療ツーリズム、教育、食と農（アグリ・ツーリズム）、インダストリアル・ツーリズム、カジノなどを戦略的に組み合わせたハイエンドの統合型観光の推進を提言し、東北全体としての取組による成長戦略の必要性を訴えました。

**◆原子力だけは軍事利用（核兵器）と平和利用（原発）が表裏一体であり、国家としての体系的原子力政策が必要**

また、日本が採るべき原子力政策は「非核のための原子力技術基盤の維持・蓄積」である。つまりIAEAを舞台に「核無き世界」を主導するためにも、日本自身が平和利用に徹した原子力技術基盤を維持・蓄積すべきであり、技術と人材を失ったならば、国際社会に貢献も発言もできなくなる。日本の協力なしには米国も原子力発電プロジェクトを進められないという現実を交渉力として真摯に米国に向き合い、日米協力で核の廃絶と原子力平和利用での安全性の進化に向けて世界にリードすべきと訴えました。

その他米国経済・中東情勢等についてもわかりやすいご講演を頂戴し、大変有意義なシンポジウムになり、参加者の皆さまを含めましてご協力に感謝申し上げます。

今後のシンポジウムにも多数のご参加をよろしくお願い申し上げます。

### < 第37回仙台シンポジウム 今後の予定 >

例 会	テーマ	講師
10月16日	サービスイノベーションによる活性化の方向性	㈱良品計画代表取締役会長 松井忠三 氏
11月 7日	最近の朝鮮半島情勢と日本の対応	静岡県立大学国際関係学部 教授 伊豆見 元 氏
12月 2日	政権与党と野党の果たす役割	読売新聞特別編集委員 橋本五郎 氏

\*全例会とも会場は仙台商工会議所会館7階大会議室、時間帯は14時から15時半です。今後の各例会に参加ご希望の方は、東北生産性本部（TEL022-261-0411）までご連絡下さい。